

おしらせ

昭和56年度夏季大会

今年度の同窓会夏季大会を左記の要領で開催致します。

神戸ポートピアランド博覧会がひらかれてる折でもありますので、同窓会の後で懐かしい旧友と共に潮風に吹かれながら見物をするのも一興だと思えます。また、昼に御家族との見物をすまされたいから、のどのかわきをいやしにきていただいてもよろしいのでは。皆様に楽しんでいただけるような企画もたてていますので、大勢の方の参加をお待ちしています。

なお、44回生(昭和38年3月卒)の学年会は、この機会に同ピアガーデンにて



甲陽だより

発行所
西宮市角石町3-138
甲陽学院同窓会
電話西宮(0798)73-3011番(代表)
郵便番号 662
印刷所
清原印刷所
石川印刷出版社
神戸市兵庫区中道通3丁目3-6
電話神戸(078)575-3761(代)

行なわれることになっています。他の学年の方々も44回生同様ご利用下さい。

一、日 時 昭和56年8月22日(土) 午後4時~午後7時

一、開催場所 そごう神戸店に12階ピアガーデン

一、会 費 (東入口エレベーターを御利用下さい)
一般会員 3,000円
学生会員 1,500円
同伴家族 1,500円
同伴子供 無料

一、申込締切日 昭和56年8月15日(土)

注意 雨天の場合は中止ですが、各学年ごとにお集まりいただき、自由行動をとっていただくような配慮をしております。

改正された

終身会費制

昭和56年3月27日の同窓会総会(西宮市民会館において開催)において、終身会員の有資格者は、旧制の中学校の卒業生に限られたことが決定されました。(旧制中学校の最終学年は、昭和24年3月卒業、29回生)
なお旧高商、工専の卒業生は全員が資格該当者になります。
該当者は会費1万円を同窓会本部に納金されることになって終身会員になれるわけです。従って、こご当分、規約改正がなされない限り、昭和24年3月卒業の第30回生以後の会員は、終身会員になれません。従来と同様、年1千円の会費を納めて下さるようお願いいたします。(なお8回生以前の卒業生各位は5千円以上という特典を昭和57年3月まで取扱っております。)

次に改正の理由を申し述べます。終身会費制が実施されましたのは、甲陽だより第30号に記されていますように、昭和54年3月の総会の席上、同窓会会則の一部改正の事項として、第25条の年会費の項に、昭和54年度の場合同、A第6回生(昭和2年3月卒)以前の会員は年会費(1口1千円)を5口以上、B第21回生(昭和17年3月卒)以前は10口以上とするというところが追加決定されたことに基つきます。終身会費制にふみきった最大の理由は、会員の年会費徴収の事務取扱い上の繁雑さを簡略化することにあることにあります。同窓生は現在既に1万人名をこえ、甲陽だよりの発行数は約8千、その発送の仕事だけでも事務局員2名は手いっぱい、何とかその軽減の方法をと思案していた結果が終身会費制の実施でした。ところが実施後、判明しましたことは、前記のA、6回生以前、B、21回生以前(この規定は当然、翌昭和55年には1回生以下がり、Aは7回生以前、Bは22回生以前となります)という規定を会員諸氏が見落され、誰かれなしに1万円を送ってこられたり、AとBを混同されたり、金額も4千円とか7千円とかまちまちであったりその結果、事務取扱いの点では軽減どころかむしろ繁雑さは増すばかりで、何のために終身会費制にふみきったのか、意味がなくなっています。終身会費を納めておられる方は昭和56年2月末現在で302名です。会員の氏名は甲陽だより第31号と第33号とに記載されています。旧制中学校卒業の各位は是非とも終身会員になられますようご協力のほどよろしくお願いいたします。

また昭和55年3月に卒業された第61回生以後の方々には、卒業時に同窓会費として1万円(入会金3千円、年会費7千円、7千円)を納入していただいていますので、高校卒業後8年めから年会費納入の振替用紙が送られてゆくことになりました。併せてよろしくお願いいたします。

(同窓会事務局 22回 中島 久)

特集

共通一次がもたらしたものの

共通一次の実施によつて、従来もつとも充実した授業の出来た3学期の1ヶ月間が全くガタガタになつてしまつた。高校教育を乱すことこれより大なるものはない。教育の正常化どころではないのである。

共通一次実施以来3ヶ年間のデータを整理して明らかにしたものは、共通一次の成績と各大学で行なう2次試験の成績との相関関係が極めて高いということであつた。1次試験で失敗するような受験生は2次試験でも決してよい点は取れていない。1次に失敗したものが、2次の配点の高い東大なら挽回の可能性がある

今春の大学入試について一筆とのことで、既にマスコミで報道されたことではあります。本校の現役生の実態に関連させて、2、3の点に触れてみます。

① 共通一次における高得点者の増加
共通一次も3回目を終え、全国平均は、63616171607と年々低下してきます。昨年は平均の低下とともに高得点者も減少していき、今年も全国平均が低下したにもかかわらず高得点者は増加しま

だろうと考えるのは、幻想にすぎないことが判明したのである。これほど相関関係が高いのなら、2次試験だけで充分である。高校教育に多大の混乱を起してまで2回も試験をする必要が

ああ共通一次

宮川 秀一

あるのかといいたい。共通一次は直ちに廃止すべきである。

共通一次のもたらした最大の弊は受験産業の繁栄である。共通一次では受験生に自己採点をやらせながら、採点は受験生自身、その結果を集計するだけで正確無比の受験情報を提供できるのであるから、こんなほろい儲けはない。本校にとっては、入試の結果そのものには殆んど影響なく、ただ進学資料室の仕事が増え、授業が乱され、そして受験する生徒には徒らに負担が増加しただけである。

した。全国平均低下の最大の原因は、昨年は英語の30点、今年は数学の23点という大幅ダウンにあると思われれます。一方今年の総合点の全国分布では、820以上ほどの段階も増加して、ぼつています。この現象は、これらの層には数学の難化はほとんど影響せず、英語の易化で得点をのばした結果と思われれます。本校でも、数学は全国23点に対して2点ダウンにとどま

本校現役生の実態

奥田 佳也

合計13,8000119、600と大幅に増え、910以上は昨年の4倍にもなり、英語は14点アップとなっております。② 私立大学の難化

「何百何十点大学」なる語が定着しつつある。これが共通一次の唯一の輝かしき成果である。

共通一次は受験産業にとっては、官費で行う全国統一模試である。出題から実施に至るまですべて政府持ち、採点は受験生自身、その結果を集計するだけで正確無比の受験情報を提供できるのであるから、こんなほろい儲けはない。本校にとっては、入試の結果そのものには殆んど影響なく、ただ進学資料室の仕事が増え、授業が乱され、そして受験する生徒には徒らに負担が増加しただけである。

共通一次実施以後、受験生が国公立型(5教科7科目)と私立一本型(3教科3-4科目)に分かれた結果、私立大学が難化してきたといわれています。本校でも、その点が今年には特にはつきりと出ました。私立大学で、現役の受験生が最も多かった早稲田の政経についてみますと、不合格者10名中、6名までが東大・京大・阪大等国立大学に合格しております。③ 現役受験生の動向
昨年の現役と比較して

大学学部別進学者一覧

※印は55年度卒業生

- 東京大学文科一類
 - 赤羽 貴※神代 浩※
 - 長野 聡※今枝哲郎※
 - 岡田 卓※北河 渉※
 - 大澤裕之※高谷 守
 - 安本浩之 山本康博
 - 三坂大作
- 東京大学文科二類
 - 川元隆志 梶本直志
 - 森 裕※文湯口佳久※
 - 岡橋 潔
- 東京大学理科一類
 - 岸田正司※垂井 誠※
 - 増岡宏昭※渡部文彦※
 - 斉藤正彦※納谷 信※
 - 藤井謙司※平野 光※
 - 岩崎克彦※大月孝之※
 - 大森 匡※奥野善則※
 - 清水広良※徳永 朗※
 - 渡部吉彦※小池直哉
 - 馬場博之
- 東京大学理科二類
 - 今井藤生※遠藤政博※
- 京都大学法学部
 - 小田耕太郎※野口公生※
 - 山寺尚雄※山本健一※
 - 定延利之※伊豆 久※
 - 上西英雄※前中 肇※
 - 松田直人 山崎真一
 - 板尾朋行 中村吉彦
- 京都大学経済学部
 - 中西 寛※西 恭司※
 - 二谷哲郎※今 俊男※
 - 益山浩之※梨和隆一
 - 金山明佳 山下竜一
 - 古川 統
- 京都大学理学部
 - 林 亮司
- 京都大学工学部
 - 橋本 一※岩本一憲※
 - 橋川忠正※本田文雄※
 - 渡瀬 誠※石戸文陽※
- 大津隆史※福田春生※
- 三本英輔※結縁祥治※
- 石橋勇人※岩田圭司※
- 岡尾和生※岩田圭司※
- 越川哲哉※新田威史※
- 横山 理※尾崎祐人※
- 桂木一行※山中利道※
- 本吉 要 森田浩一
- 長谷川尚司 森 真央
- 京都大学医学部
 - 貝原 聡※小川佳宏※
 - 飯原弘二※河村哲治
 - 田中省三 高木 均
 - 河井昌彦 西小森隆太
 - 河上 聡
- 京都大学教育学部
 - 尾古雅章※
- 京都大学農学部
 - 山内隆行※琵琶政典※
 - 吉中厚裕※大館洋一※
 - 田淵健太
- 大阪大学法学部
 - 奥村佳則 藤川昌資
- 大阪大学経済学部
 - 田中 徹※酒井勝司※
 - 大里宗久
- 大阪大学理学部
 - 富園慎一郎※
- 大阪大学工学部
 - 桜井浩司※山中千博※
 - 山口 徹※生田正一
 - 田口元久
- 大阪大学基礎工学部
 - 石倉典明※服部裕一※
 - 有坂研司※
- 大阪大学医学部
 - 山崎勇二※瓶井資弘※
 - 西田和彦※濱口朋也※
 - 厨子慎一郎※石村知也
 - 松梨達郎 石神真人
- 大阪大学薬学部
 - 岡 頭一※

まずと、東大志望者はほぼ同数で合格者は増、京大志望者は増加して合格者は減、両大学の合格者数の計は同数、国公立合格者の総計はほぼ同数となっております。

京大志望者の増加は、昨年の阪大の問題傾向から阪大を敬遠したことと、昨年の現役が、共通一次の結果から慎重になって京大を敬遠したためと思われ

ます。今春の京大入試は、最低点が医学部の93点を筆頭に軒並み大幅アップ、①の項目に述べた状況から予想されたことはいえ、「意外にも……」の感

を抱いて浪人した生徒もあることでしょう。旧担任団としても、「せめて5点以内の5、6人が……」との思いをぬぐいきれません。

快進撃 バスケツトボール部OBチーム

バスケットボール部OB
会親睦試合8月22日(土)
AM11時 高校にて

西宮市内のバスケットボール界に、新風を吹きま

つぎましては、8月22日(土)11時より高校(角石町の新校舎)にて、OB会親睦の試合を行なうことになりました。

皆様ぜひ参加して下さい。その後、4時より、神戸そごうビヤホールに会場をかえ、同窓会大会と共に祝盃を上げ、OB会の親睦を益々深めようと考えております。

OBチームも過去3年間、5月と12月にある西宮市内の大会で、(20チーム出場)1回の準優勝をはさみ、5回優勝、今年の5月の大会も優勝し、市内敵なしの活躍をしています。そ

戦後29年に部の卒業生を出し、現在会員は、優に100名を越えました。今回会員の内、70名程音信があり、21名が出席、また、現在顧問の岡先生も出席し、話が進むにつれてOB会をより上げて行こうということに

なり、まずは新会長の勝呂聰氏の音頭により、「夏に会員が集まり試合をしよう」ということになりました。

また、現在部誌を制作中です。過去の戦績、エピソード、写真等がありましたら、高校の岡先生まで、親睦試合の出欠とあわせて、連絡して下さい。

OBチームも過去3年間、5月と12月にある西宮市内の大会で、(20チーム出場)1回の準優勝をはさみ、5回優勝、今年の5月の大会も優勝し、市内敵なしの活躍をしています。そ

戦後29年に部の卒業生を出し、現在会員は、優に100名を越えました。今回会員の内、70名程音信があり、21名が出席、また、現在顧問の岡先生も出席し、話が進むにつれてOB会をより上げて行こうということに

なり、まずは新会長の勝呂聰氏の音頭により、「夏に会員が集まり試合をしよう」ということになりました。

また、現在部誌を制作中です。過去の戦績、エピソード、写真等がありましたら、高校の岡先生まで、親睦試合の出欠とあわせて、連絡して下さい。

中高ともに勝利

サッカー部灘・甲陽定期戦

毎年恒例のサッカー部灘・甲陽定期戦が、6月21日(日)灘高校グラウンドで行なわれ、中学・高校ともに勝利を収めました。

この定期戦も、毎年回を重ね今年で29回目となりましたが、どういわけかあまり天気に恵まれず、今回

も今にも降り出しそうな空模様のもとで、午前8時45分に開会式が行なわれ、それにひきつづいて9時過ぎから中学校、10時過ぎから高校、11時半からOB戦が行なわれました。中学校5対0、高校1対0と、ともに

B戦は3対3と惜しくも引き分けに終わりました。ところで来年は第30回とところで、中島・中村・森本・勝村諸先生方の御協力で、記念大会を行なうことを計画しています。というわけで、OBのみさんの御支援をお願いします。



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|------------------|----------------------|---|------------------------|-----------------|-----------------------|-------------------|------------------|------------------|------------------|-------------------|---------------------|--------------------|------------------|-----------------|------------------|------------------|-------------------|-------------------------------|--------------------|------------------|-----------------|--------------------------------|----------------------|-----------------|-----------------|-----------------|------------------|-----------------|----------------|-----------------------|-------------------------|------------------------|--------------------|--------------------------------------|---------------------------------|------------------------|------------------|-------------------|
| 大阪大学人間科学学部
藤原謙司※後藤慎治※
橋本典明※ | 神戸大学経済学部
安井利明※細野恒一
幸 真一 | 神戸大学経営学部
田辺巳三 | 神戸大学工学部
堂坂 亨※武井 誠 | 神戸大学医学部
八木規夫※神垣 隆※
寺島充康※富永洋一※
吉田公久 伊東 頭
岸 清彦 遠藤浩一
泉山一隆 | 神戸大学教育学部
松本和己※嶋吉 豊※ | 一橋大学法学部
岡本泰造 | 一橋大学経済学部
多田 誠※水野博好 | 一橋大学社会学部
松本 洋※ | 東北大学法学部
笹山健一※ | 東北大学医学部
金山岳夫※ | 茨城大学人文学部
小坂義彦 | 東京医科歯科大学
内田源太郎 | 横浜国立大学経営学部
三浦英樹※ | 横浜国立大学工学部
織田俊宏※ | 金沢大学医学部
仁木健雄※ | 山梨大学工学部
妹尾裕治 | 信州大学工学部
西岡宏起※ | 岐阜大学医学部
江崎正浩※ | 名古屋大学理学部
栗山昌也※ | 名古屋大学医学部
土屋英俊 藤原道隆
堀部鶴人 | 名古屋大学農学部
名古屋大樹※ | 滋賀大学経済学部
片岡秀樹 | 岡山大学工学部
妹尾裕治 | 岡山大学医学部
日下 敏※辻 一城※
長宅芳男※ | 広島大学工学部
川島邦博 市川 諭 | 山口大学医学部
前田達雄 | 徳島大学医学部
中井通夫 | 愛媛大学医学部
友岡義夫 | 九州大学医学部
岩瀬直人※ | 九州工業大学
熊澤宏治※ | 都留文科大学
滝川陽一 | 京都府立医科大学
橋 逸勢※菅沼 泰 | 大阪府立大学経済学部
松田義和 松本浩彦 | 大阪府立大学工学部
中野邦彦※下野修志 | 大阪府立大学工学部
南部信浩※ | 大阪府立大学工学部
望月邦三※阪倉民浩※
福岡真一※望月得郎 | 大阪府立大学工学部
大高府立大学工学部
高尾真司※ | 奈良県立医科大学
北方一成※木村俊夫※ | 防衛大学理学部
平野雅嗣※ | 防衛大学人文学部
湯口佳久※ |
|-----------------------------------|-------------------------------|------------------|----------------------|---|------------------------|-----------------|-----------------------|-------------------|------------------|------------------|------------------|-------------------|---------------------|--------------------|------------------|-----------------|------------------|------------------|-------------------|-------------------------------|--------------------|------------------|-----------------|--------------------------------|----------------------|-----------------|-----------------|-----------------|------------------|-----------------|----------------|-----------------------|-------------------------|------------------------|--------------------|--------------------------------------|---------------------------------|------------------------|------------------|-------------------|

追悼 服部啓六先生

今年の2月、70歳のお誕生日を迎えられた直後に、先生はおなくなりになりました。

いつの頃だったでしょう。か。先生が毎日の登下校の時に手にされていた小さな包みには、いつも「歎異抄」の冊子があって、授業の空き時間や放課後には、職員室でも、机にひじをついた姿勢で、その本を食い入るようにして読まれておられたことがありました。その

服部先生が甲陽に赴任されたのは昭和24年、私が高2、先生30代の頃である。生意気さかりの年頃の私達にも、先生の学問への情熱、そして純粹で清潔な人柄が強い印象を与えたものである。

私が化学に興味を持ち、その道に進み、遂には先生の後を追って化学の教師になったのも、先生との出会いによる処大である。お宅にも度々お邪魔して

この4月から服部先生の後任として奉職することになりました。甲陽在学中は6年間、先生の御指導を仰いだ者として感慨無量であると同時に、今新たな緊張感に身の引締る思いです。先生のことです。思い出されることといえば、やはり最初の授業です。いきなり周期表やら元素記号やらが出てきて、当時中1の私には何のことかさっぱり分らず、ただ目を丸くするば

頃は、何かというと、歎異抄のこと、親鸞のことを話して居られました。またある時は、庭木の話題が多い時期もありまし

歎異抄を愛された先生

学校長 小河清麿

た。しかし、それ以上に、旅の話を読まれる時の、その楽しそうなお顔の方が、私には深く残っております。

「服部先生。先生は、漢字とカタカナだけを使われる先生です。先生はたいへんやさしくて、すべて生徒た

の前に浮ぶようです。そして本校の卒業アルバムには、先生が卒業生に送られる言葉として、まさしく漢

色々教えを受けたり、また悩みを聞いて頂いたり、時には生意気な議論を吹きかけたりした汗顔の思い出も

あった。「面白いと思いませんか?」「そやけんども君イ」とあの大きな目をむい

た。庭先には先生ご丹精の

服部啓六先生を悼む

川口小佐男

ある。その様な時にも先生には、教師として指導助言してやるといふ雰囲気がある。お宅にも度々お邪魔して

て真剣に話されるあの温顔に接する事がもうできないと思うと無限の淋しさを覚えるのである。

みかんが色づいていた。あのお手づくりの庭と、化学の本の一ぱい。しまった書齋を往復されつつ、これから

かりでした。しかし、そのことは我々に苦痛を与えませんでした。むしろ繰返し説明して下さるうちに、我

成した化合物が並んでおり

究に従事されていたことがそのまま教育の場にも生かされていることの一つの頭われと思えます。私が卒業してからも、先

服部先生の思い出

大川貴史

引込まれていったように思います。先生との出会いは、私が化学の道を選ぶ大きな契機を与えてくれました

ます。先生に引付けられて有機化学を志された方が多いと伺っておりますが、お若い頃有機化学者として研

生にお会いする度に「化学はなあ、ものをさわってん」とあかんねん。ものさわるとの忘れられた陸に上がった河

字とカタカナの文で書かれておられます。「創造ニ生キヨ。」「寛ニ在レ。」「皆ソレゾレノ道ヲ歩ミ幸多カラシコトヲ祈ル。」と。

いつまでも、いつまでも、われわれ甲陽の人達の心に残っている先生でした。心から、ご冥福をお祈りいたします。(56年6月24日)

10年も20年も余生を楽しんで頂きたかっと思ふ。私は先生の最初の教え子というだけで、一の弟子と自称する事を誇りにしているものの、何一つお役に立てず恩返しも出来ぬまま他界された今、出来る事は先生の誠実清潔な人柄に少しでも近づく、僅努力する事だと思ひ、遅ればせながらせめて何かお役に立ちたいとこの拙文を御霊前に捧げ次第である。(32回)

童と同じやで」とおっしゃっておられました。お亡くなりになる時まで持ち続けておられた化学という学問への情熱、また化学と御自身の生活とを見事に一体化しておられるお姿には、頭の下がる思いです。教え子の一人として一歩でも先生に近づきうるよう努める所存です。先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。(55回、京大理化修士卒)



会員だより

甲関対抗陸上 競技の回顧

下条 貞 勝

(1回)

対関西中学競技開催成績左の通り

- 百米 花谷(甲) 綱島(関)
- 原(甲) ▲鉄弾 武部(甲)
- 辻(関) 森(関) ▲八百米
- 花谷(甲) 黒河内(関) 榎原(甲) ▲槍山内(関) 垣内(関) 原(甲) ▲千六百米
- 下条(甲) 岡(甲) 平田(関)
- ▲半哩リレー 関西(吉田、森、今北、綱島)
- 一分四十三秒 ▲円盤 辻(関) 森(関) 武部(甲) ▲幅跳 綱島(関) 花谷(甲) 榎原(甲) ▲マラソン 五哩
- 西内(関) 原田(関) 下条(甲) ▲二百米 花谷(甲)
- 右田(関) 今北(関) ▲高跳 八尾(関) 榎原(甲)
- 武部(甲) ▲四百米 花谷(甲) 森(関) 今北(関) ▲ホップ・ステップ・ジャンプ
- 榎原(甲) 伊元(関) 森(関) 一哩リレー 関西(吉田、森、今北、黒河内) ▲レコードの優勝なるものは▲百米(十二秒)
- 一、二着同タイム ▲半哩リレー 一分四十三秒 ▲マラソン 四十分三十三秒 ▲幅

跳十八尺八寸五分 ▲二百米廿五秒 ▲四百米五十八秒 ▲一哩リレー 四分八秒 採点は甲陽卅六 ▲関西(四十五)

一九二二年(大正十一年)五月某日関西西学院校庭で、甲陽中学対関西西学院中

学対抗陸上競技が行なわれた。たまたまこの報道記事(大阪朝日兵庫版)のスタックラップ発見を機会に、この競技に参加した数少ない現存者の一人として、自らの体験を伝えると共に現世代を対象に若干の解説を加えておきたい。

まず、今日聞き馴れぬ「鉄弾」は砲丸投げ、「槍」はやり投げである。千六百は千五百の誤記では無い。このレース、スタート直後から岡重勝君(2回)がトップを切って、ベイスメーカーの役割を果たして呉れたので、下条がこれに続き、最終回第三コーナー必死のラストスパートでそのままテープを切り、会心のレース運びとなった。

リレーの半哩(マイル)一哩は、それぞれ八百と千六百、である。ヤードポンド法で一哩は約一・六〇九三キロメートルであるが、これを千六百と誤っていた。円盤、幅跳は円盤投げ、走り幅跳びのこと。

二六哩三八五ヤードの正規マラソンをフルマラソン、それ未満のロードレースを短縮マラソンと呼び方もあったが、この日の「マラソン五哩」は後者のロードレースである。当時の関西西学院は現在の神戸市王子動物園にあり、当日のコースはグラウンドをスタートして東側の門から阪神岩屋停留所に向って南下、途中水道路(みち)を左折して東に向い、石屋川堤防を折返し点とする往復五哩、八千八尺である。水道路はこれより数年前大径送水管埋設のため設けられた道路であるが、道路というより道路予定地の程度で人通りも無く、大石川以東の沿道は人家も無かった。水量の少ない大石川ではあるが、完全な護岸もない自然の流水で橋も無く、待ち受けていたヤードの閉塞の関学高等部大谷氏に誘導され、河原を飛石伝いに対岸へ渡った。ロードレースというより、クロスカントリー・レースに近かった。大谷氏は長距離レースのベテランであったが、この日レースの先導役として伴走した。折返し点石屋川土手下で、待ち構えていた河合次寅君(2回)から激励されて素早く通過証のタスキを手渡され、これを肩にして同じ

路を引返した。日ごろ武庫川堤防等の平坦な道でトレーニングを重ねた下条に取って、復路の水道路を右折

ゴール関学迄は、まさに「心臓破り」の急坂であった。

「高跳」は走り高跳び、「ホップ・ステップ・ジャンプ」は、三段跳びの原名で当時この訳語は未だ無かった。「レコードの優勝(優秀の誤まりか?)なるもの」として、走り幅跳び十八尺八寸五分、5 尺71 があげられている。フィールドについては借し

いことに、これ以外記録されていないがこれから推定して、フィールド競技の計測はすべて尺貫法によったのであろうか。メートル法、ヤードポンド法、尺貫法共存の複雑な時代相がうかがえる。

以上を現代式に総括すれば次の通り。

- ▽百尺 ①花谷(甲) 12秒
- ②綱島(関) 12秒 ③原(甲) 12秒
- 砲丸投げ ①武部(甲) ②辻(関) ③森(関) ④八百尺
- 花谷(甲) ②黒河内(関) ③榎原(甲) ④やり投げ
- ①山内(関) ②垣内(関) ③原(甲) ④千六百尺
- ①下条(甲) ②岡(甲) ③平田(関) ④八百尺
- 北、綱島 ①関学(吉田、森、今北) 1分43秒 ②甲陽▽円盤投げ ①辻(関) ②森(関) ③武部(甲) ④走り幅跳び ①綱島(関) 5 尺71 ②花谷(甲) ③榎原(甲) ④八千尺
- ロードレース ①西内(関) 40分30秒 ②原田(関) ③下条

(甲)▽二百尺	①花谷(甲)	12	三
25秒	②谷田(関)	③今北(関)	④今北(関)
走り高跳び	①八尾(関)	②榎原(甲)	③武部(甲) ④森
百尺	①花谷(甲) 58秒	②森(関) ③今北(関) ④伊元(関)	⑤三段跳び
①榎原(甲) ②伊元(関) ③森(関) ④千六百尺リレー	①榎原(甲) ②伊元(関) ③森(関) ④千六百尺リレー	①榎原(甲) ②伊元(関) ③森(関) ④千六百尺リレー	①榎原(甲) ②伊元(関) ③森(関) ④千六百尺リレー
関学(吉田、森、今北、黒河内) 4分8秒	②甲陽	②甲陽	②甲陽
種目	甲陽	関学	得点
一〇〇尺	四	二	二
八〇〇尺	四	二	二
六〇〇尺	五	一	一
八〇〇尺	〇	三	三
リレー	〇	三	三
八、〇〇〇尺	一	八	八
ロードレース	三	三	三
二〇〇尺	三	三	三
四〇〇尺	三	三	三
一、六〇〇尺	〇	三	三
リレー	〇	三	三
砲丸投げ	三	三	三
やり投げ	一	五	五
円盤投げ	三	三	三
走高跳び	三	三	三
三段跳び	五	一	一
計	三六	四五	四五

結果として9点差で敗れてはいるが、得点の内容を分析すれば両校間の実力にそれ程の格差は無かった。最大の敗因はマラソン八千尺ロードレースの得点にある。他種目の得点が①3点②2点③1点の配分に対し、マラソンに限って①5点②3点③1点の採点方法を取った。従ってこのレースでの7点差と、両リレーでの6点差が甲陽側に大きく響いた。も

しマラソンの採点を他種目並みとすればその差は4点にとどまり、更に両リレーのいずれかを甲陽が制していれば、両校の総合得点はそれぞれ39点のタイであったことを特記しておきたい。

個人としては花谷猛君(4回)が14点と抜群の活躍振り、榎原賢太郎君(2回)の7点がこれに続き両校を通じ、二位を占め、共にトラック・フィールド両面での活躍が注目される。リレーを除くトラック全種目で、甲陽が一位を制したこともつけ加えておこう。

競技終了後両校懇親会の席上、中谷英真先生から甲陽の敗因について、きわめて謙虚な反省のことがあったのが印象に残る。

この日約二十名の部員は一旦登校後授業半ばで中谷先生に率いられて、競技場関西学院グラウンドに臨んだ。マラソン折返し点に立ち会ったインスペクター河合次寅君は、頼まれて同行したのである。競技の記録は翌日校内に掲示発表されたが、平日校外で行われたこの対抗競技について、一般在校生の記憶に残る筈は無い。

記録に残る甲陽側七名の外に誰がいたか? わずかに記憶に残るのは短距離の高井保治君(2回)くらいで、その他には自分の出場した種目についてさえ思い(次頁下段に続く)



会員だより

甲陽会(一回)

春恒例の会合を根城とも云える宝塚ホテルで6月18日する。

今後の会方針を協議する。音信が途絶えていた窓にも元気で集まった写真を送って台合に参加すること促すことにした。

尚夏の母校夏季大会(神戸十合)には全員参加を希望した。

乾杯に先立って過日急逝せられた榎子田茂氏に黙禱を捧げた。健康を誇っていた氏であった。一番最後まで居って呉れると思う人である。東京より溝口氏が家族同伴での医師の許可を受けられて奥様と前日同ホテルに宿泊の上参加された。海外でのお話も承った。お互いにもう80才に近いのだ。各自健康を保つにいろいろと苦労している話が続出した。小生も30余年医師に診てもらったことはないが昨今は一寸不調であるとして一同より注意を受けた。友情の温かさに感謝する。後僅かな人生だ大切にすることを誓った。

秋には溝口氏御夫妻の御世話で湯河原で行ない東京地方の人々に広く呼びかけ約し、例によって中島氏に

よる記念撮影をして別れた。(合田生)

- 参加者 宮崎武・宮崎卯
- ・西松・長谷川悟・広瀬
- ・多田・佐々木・井関
- ・山口・溝口・吉田
- ・中島・合田 13名

甲十会

うっとり梅雨をひかえた6月の一夕、ここ西宮今津の料亭で記念例会が開催された。私ら2人は、前例会で当番幹事として選任され、当日は定刻より早目に赴いて、各会員の出席に備えた次第であります。

然し乍ら我々は初めての当番幹事である為若干のつまどいと不安を感じられましたが、幸いにも会員諸兄の温い協力によりまして、どうにか無難に完遂出来得たようで、ホッとひと安堵した次第であります。

生は終戦後5、6年の頃と聞いております。それ以来約30年の経過をみた今日、ここに第50回目の例会を迎えることとなった次第であります。加えて我々が昭和6年の春に母校(甲陽)を卒業して以来、ここに半世紀(50年)の永きにわたるために、当例会を特別例会として会員各位に案

内した次第であります。従って各会員にはこの点よく納得したのか、いつもの例会に比べて出席状況が至極よろしく、40有余名の出席返事を受けて驚き入り、予約の次第におさますか危惧した次第であります。実際当日は39名の出席をみて案の定、世話係はハミ出しを喰うという盛況ぶりでありました。(これまでの最多出席レコード)

開会に定刻よりややおくれで宣じられた。席には今なおカクツヤクたる朝田老恩師を頂いて、元氣一杯の乾杯のあと次第に活況を呈し、矢張り同窓会ならではの和やかな風情がこもり出されて、あちこち談論風発し熟年おやじも暫しの童心にかえってのケンソウぶりは、まさに壮観でした。

御堂筋のいちよう並も漸く青い芽を吹き出した新緑の4月16日、何年振りかの13回生(昭和9年卒)の集いを、大阪谷町6丁目の薬業年金会館に於て開催した。世話役の柳原、福永両名の呼びかけに応じ東京、横浜をはじめ遠くは広島、高知など全国各地より馳せ参する者25名。久々の会合の一致せず「あなたは誰やった?」の挨拶、ニックネームで初めて通する様な場面もあった。実にさきがけ全員集合の記念写真、かつての美少年達も今や光頭、白髪、種々雑多、しばしカメランを頼む。



司会者挨拶の後開宴、それれより自己紹介あり、還暦を過ぎて悠々自適組もあるが、未だ仕事に対する未練が断ち切れぬのか令に負けず日夜奮闘中の者も多い。話題も孫のことや老後の方策など大分年寄りくさくなって来た。尽きぬ懐古談にしばし刻の経つのも忘

13回生の会

れ、和気あいあいの内に定刻を迎え、昔に帰って「ああ青春の血は燃えて」を合唱、万歳三唱の後別れを惜しみつつ、再会を約し解散す。

- 当日の出席者(A・B・C順)
- 土井一秋 福永二郎 原秀夫 林健 今井市蔵 乾全宏 岩崎祥一 上念竜太
 - 海辺忠治 紀寺植造 久保基也 巻幡静彦 宮本博通 宮内美雄 森本成己
 - 中山育雄 新妻俊男 篠田禎三 末松賢二 高橋辰男
 - 巽亨 豊田実 梅田一 山村真一 柳原良平
- 以上25名

(前頁より続く)
出すすべも無い。
この日の関学側に小学校同級生辻良三君がいる。武部晋一君(3回)の好敵手で、円盤・砲丸の一位をそれぞれ分け合っている。武部君は東京高師(現筑波大)に進み将来を嘱目されたが、惜しくも早世した。辻君は関学高等部に進んで後、円盤投げに熱意を燃やして、当時最高水準にあつた対早大定期対抗陸上競技にも出場した。後改姓、ビルマ戦線奇跡の生還を遂げ、実業家菅野良三として生地に健在である。東京、神戸の東西に隔て乍ら、下条と旧交を暖めているが、かつて二人の間にこの日の事が話題に上ったことは無い。この一文を贈って、関学サイドからの追憶を呼び戻し、感想を求めたいと期待している。

資料のスクラップ、はじめの部分が欠けているため、この日を某日とせざるを得なかった。「大阪朝日兵庫版」は「兵庫付録」であつたかとも思う。一面が地方版、裏が全面広告の二頁建てであつた。
なお文中「関学高等部」とあるのは、関学中学に対しての当時の呼び方で、現関学大の前身である。
(文中の数字の表記については下条氏の御要望により原文のまま一編集部)



会員だより

桜永会

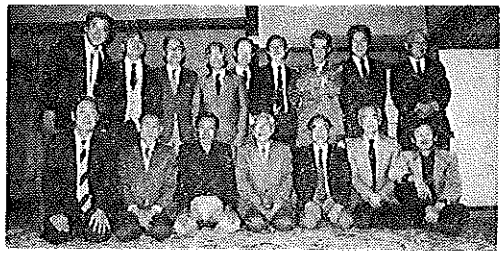
春未だ浅い3月21日、恒例の桜永会が西宮市香栢園の大谷記念美術館内の緑爽庵で開催された。桜組(22回生)担任の思師永井勇一先生の「永」を頂戴した会である。先生もお元氣な姿を見せられた。

思えば終戦直後の昭和二十二、三年頃、鍋や飯ごうさげて材料持ち寄り、芦屋あたりで会合したのがはじまりで、もう30年以上も続いている。当時から今迄、田中、田原、両君らによく面倒を見て頂いた。感謝します。

今回の出席者は、永井先生はじめ、阿部、伊藤、井尻、大西、齊藤、塩田、傍島、田中、高木、田原、傍尾、東地、堀部、村井、吉村、吉野の17名。

テールプルの設置や仕出し屋の料理の配膳、また湯沸し等、各自セルフサービスので行い、(あまり家庭や職場では見られない光景?)和氣あいいいの中に旧交を暖め合った。

お世話願った高尾君の司会で、不参加者の消息の紹介やまた、今後益々会を発展させるための意欲的な話があった。



中島久先生(同じく22回生)桃組(現学院教諭)が立ち寄られて、桜組は毎年よく人が集まると聞いてましたが本当ですな、と感心して帰られた。少々鼻を高くした次第。

東京からの吉村君をはじめ、東地、村井、伊藤君が遠方より参加された。美しい庭園に囲まれた庵の中で、懐旧談はつきなかつたが、夕方近く校歌を合唱して解散した。

(22回 傍島一郎)



東京会

46・47・48回

去る5月17日(日曜)、46回、47回、48回卒業生合同の東京会が、赤坂「楽味」で催された。46回生の小村浩君を中心に、47回生の小橋正和君、48回生の本木隆夫君等が幹事となり、母校からは、かつて各学年の担任であられた、小河校長、中島久先生、宮川先生をお招きした。当日はあいにくの雨模様となったが、参加者も約60名と、大盛会であった。

卒業以来はじめて同窓会に顔を出すものも多く、学年の違いもあったが、東京という場所がらのせいか、なつかしさをすべて心の壁はぬぐいさられた。幹事諸君の綿密な準備と、進行係の見事な会の運びで、会場

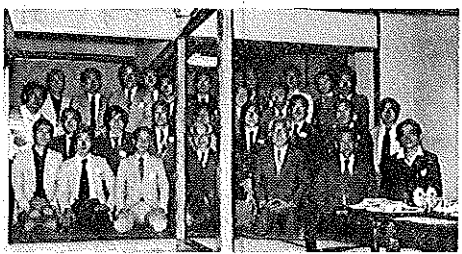
のあちらこちらで話の花が咲き、つかの間の3時間であった。肩を組んでの学院歌合唱、46回的小林洋幸君の「応援スタイル」による母校への激励、47回生の佐藤進君の音頭で万歳三唱にて散会となった。

東京会はかつて何度か、中川経治先生らの呼びかけで開かれたが、今回は少し

世代が下り、いわば青年から中年への過渡期の連中の集まりであった。これらの世代は卒業生の4分の1が関東に住んでおり、関西在住者よりいっそうサラリマン層が多い事が特筆できよう。今回、第1回の学年会を開くことができました。又次回の開催を46回の近藤宏君等に一任すること最後に決定した。

また、同窓会という、多忙中にもかかわらず、喜喜として上京して下さる母校の先生方を拝見して、今更ながら甲陽の価値を発見したようだった。

(46回 富田 勲)



57回学年会

私たち第57回卒業生も卒業以来5年がたちました。これまで、クラスごとのク

ラス会は何度がありました。が、学年全体の学年会はまだ開かれていませんでした。かねてより、やろうではないかとの声は強かったのですが、できずにいたところ、今回、第1回の学年会を開くことができました。

3月21日、ポトビア開幕でにぎわう神戸の「いろりや」に参集しました。幹事の胸算用としては百名の大台を期待していたのですが、時期が悪かったためか、連絡が遅くなったためか、はたまた幹事の不徳のいたすところか、ちよつと少なめで、71名の参加者となりました。それでも、これだけの人数が集まればにぎやかなもので、卒業以来はじめて見る顔や1年ぶりで見える顔、大学の教室でいつも見る顔などがいっぱいでした。

村上先生に音頭をとっていただいた乾盃した後、小河校長先生から母校の近況等をおはなしいただきました。欠席者の近況報告のハガキを読み上げ、出席者も、就職した者など特に身近に変化があった者には、その旨を報告してもらいました。その後、御出席いただいた小河・村上・徳永・田村・林・中村の6先生方にそれぞれ歌をうたっていただきました。散会後は、幾人かずつ2次会にわかれ、終電車まで再び顔を合わすということになったよう

です。最後に、この会を開いてみて驚いたことをひとつ。まだ結婚している者はおらないだろうと思っていたのですが、なんと、弱冠23才、学生の分際でありながら女房持ちが1人おったのです。平林君、あんなや、あんな (岡 誠)

計 報

平林一男氏(高商1期)「第33号甲陽だより」に、世話人代表として昨年10月30日の同期会の模様を感慨深く詳述、元氣な再会を心から呼びかけてくれた氏が4月22日午後4時1分、胃がん(再発)にて亡くなりました。享年59才。第一神港商業学校を経て昭和17年9月甲陽高等学校を卒業、直ちに松下電器産業株式会社、洗濯機事業部に在籍しておられました。生前詩吟を好み、特に日本酒をこよなく愛されました。氏の急逝をいたみ謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

ご遺族
〒651 神戸市須磨区
高倉台1丁目3番2
1101
平林孝子様
電話(078)
73416196

昭和 55 年 度 決 算 書

収入之部				支出之部			
科 目	予算額	決算額	差引増減	科 目	予算額	決算額	差引増減
会 費	3,625,000	3,311,700	313,300	人 件 費	1,176,600	1,067,000	109,600
本 年 度 費	2,750,000	2,381,700	368,300	手 夏 冬 手 当 当	876,000	807,000	69,000
新 会 員	275,000	288,000	△ 13,000	枝 内 志	250,000	240,000	10,000
利 子 収 入	600,000	642,000	△ 42,000	交 通 費	50,000	20,000	30,000
	300,000	588,699	△ 288,699	需 要 費	60,000	94,550	△ 34,550
雑 収 入	20,000	5,150	14,850	会 議 費	60,000	45,155	14,845
繰 越 金	92,406	92,406	0	総 会 費	250,000	272,310	17,690
預り金会費未付		400,000	△ 400,000	理 事 会 費	60,000	84,310	△ 24,310
計	4,037,406	4,421,955	△ 384,549	懇 談 会 費	50,000	33,000	17,000
				事 業 費	180,000	155,600	25,000
繰 越 金	81,550			甲 陽 だ よ り	1,915,000	1,843,845	100,155
大会収入金	288,000			郵 送 料	600,000	656,000	△ 56,000
預り金	12,554			振 替 用 紙	850,000	773,590	76,410
年会費	56年度 1,246,000			備 考 其 の 他	100,000	147,500	△ 47,500
57年度以降 6,554,000				大 会 費	50,000	37,045	12,955
大会預り金 4,500				大 会 費	250,000	113,310	136,690
基本金 5,750,000				記 念 品 代	95,000	116,400	△ 21,400
				雑 費	420,000	415,565	4,435
				修 繕 費	240,000	240,000	0
				贈 与 費	80,000	108,290	△ 28,290
				振 替 料	100,000	67,275	32,725
				予 備 費	86,406	35,000	51,406
				計	4,037,406	3,773,425	263,981
				基本金組入		350,000	
				特別積立金返金(54年度分)		200,000	
				大会費明細			
				収入	113,310+288,000=401,310		
				支出	打合せその他 福引 パス代 写真代 旅費並当日飲食代		
					73,918+60,000+50,000+36,000+181,392=401,310		

光陰矢のごとし。全くは
やいもので、グリー部と
もに歩みは過ぎてはや10年
という歳月が過ぎてゆきま
した。
その年々にいろいろな思
い出が残されてきました
が、3月に行なった「甲陽
グリー不定期演奏会」は最
も大きな出来事の一つとし
て、記憶に残ってゆくこと
と思います。
楽しい思い出、苦しい思
い出はたくさんあります
が、「自分たちの力だけで、
自分たちだけのコンサート
10年目を迎えるにいた
り、現役諸君の演奏技術も
随分と向上し、OB会の組
両者の結果した力は大きな
歌声となつてホールいっぱ
閉じることが出来ました。
終演後、一人一人と握手
を交しながら、私は皆から
熱い力を注がれたように感
じました。
これからもこの素晴らしい
グリー部で新たな生徒たち
との出会いがあり、楽しみ
そして苦しんでゆくわけで
すが、この先輩たちの熱い
力を注入して、さらに大き
くはばたかんとを願って
おります。

「甲陽グリー不定期演奏会」の 成功を感謝いたします

松井 義 知

「開きたい」これはグリー
部の永年にわたる一貫した
夢でありました。
織も充実し、まさに「機は
熟す」の感がありました。
ほぼ1年計画で練習に取り
いに響きわたり、満員の客
席からの大きな拍手に支え
られ、大成功のうちに幕を

昭和 56 年 度 予 算 書

収入之部			支出之部		
科 目	金額	備 考	科 目	金額	備 考
会 費	3,750,000		人 件 費	1,224,000	
年 会 費	2,800,000	@1,000×2,800人	手 夏 冬 手 当 当	924,000	47,000×12 30,000
新 会 員	350,000	@1,000×350人	枝 内 志	250,000	
利 息	600,000	@3,000×200人	交 通 費	50,000	
雑 収 入	20,000		需 要 費	60,000	
繰 越 金	81,550		会 議 費	65,000	文房具、ハガキ、切手
計	4,451,550		総 会 費	295,000	
			理 事 会 費	65,000	
			懇 談 会 費	50,000	
			事 業 費	180,000	
			甲 陽 だ よ り	2,230,000	
			郵 送 料	700,000	印刷代 2日
			振 替 用 紙	900,000	
			備 考 其 の 他	150,000	
			大 会 費	80,000	
			大 会 費	300,000	打合せ、会務連絡その他
			記 念 品 代	100,000	
			雑 費	440,000	
			修 繕 費	240,000	
			贈 与 費	240,000	
			振 替 料	100,000	
			予 備 費	117,550	
			計	4,451,550	

大学合格者の氏名を
国公立に限って掲載し
ておりますのは、私立
の場合、1人で何校に
も合格するなど、実情
の把握が困難だとい
う事情によります。こ
の点、御了解くださる
ようお願いいたします。
編集部

計 報
餅子田 茂氏(第1
回準卒) 56・2・5死
亡。
4年修了後中央大学
に法律を学び弁護士と
なる。甲陽会春の例会
案内状を出したところ、
奥様より2月5日
元気で家を出て千里山
駅にて電車に乗るなり
心不全にて亡くなった
と返信があった。健康
には自信満々で、去る
54年11月の懇親会に宿
でヨガ式のような健康
体操を披露、身体の柔
軟さに一同を驚嘆せし
めた。其の後も法廷の
仕事後ロイヤルホテル
温泉プールで毎日2時
間程水泳するのが日課
とか、母校プールに行
ったとかの便りがあつ
たが、健康過信がもた
らした結果でないかと
思われるが、信ぜられ
ない計報であった。